

◆特別インタビュー

たった一人を救うために、俺がまず動く！



公益社団法人日本駆け込み寺代表理事
一般社団法人再チャレンジ支援機構理事

玄 秀盛 氏

2015年4月、歌舞伎町の新宿コマ劇場跡地に、30階建てのホテルと都内最大級規模の映画館が開業

した。同じ頃、道を隔てた並びの雑居ビルに「新宿駆け込み餃子」という、少し変わった名前の居酒屋がオープン。元受刑者の社会復帰を支援する店で、窃盗や傷害等で服役した3名が働く。仕掛け人である玄秀盛氏は、2002年、歌舞伎町の一角に「駆け込み寺」という相談所を立ち上げ、13年にわたってDVやストーカー、引きこもり、多重債務などに悩む人々を救済してきた。自身も「特異」な人生をくぐりぬけ、相談者の苦難に真正面から向き合ってきた玄氏が「今、一番やらんとあかん」と考える課題について話を聞いた。

どん底をくぐり抜けた子ども時代

「これまで3万人以上もの人たちのトラブルを、体を張って解決されていますよね。その覚悟とパワーはどこから出ているのでしょうか？ 幼い頃に相当な苦勞をされたと思いますが。」

玄 本にも書きましたが、そりゃあ悲惨な子ども時代やった。生まれば大阪西成のあいりん地区で、父は韓国からの密入国者で、母は在日韓国人。父母それぞれの愛人宅を引き回されて、小学校も転々。家では親にどつかれ、行く先々の学校ではリンチと仕返し繰り返し。自分が食っていくために小学校4

げん・ひでもり

1956年、大阪市西成区生まれ。20～40代前半は金儲けに心血を注いでいたが、2000年にHTLV-1（白血病の原因となるウィルス）の感染者であることが判明。それを機に過去を捨て「生きた証」を残すため、NPO法人日本ソーシャル・マイノリティ協会を設立、以来3万人以上の人々の悩みの救済を行ってきた。2011年日本駆け込み寺設立、翌年公益社団法人格取得。2014年、一般社団法人再チャレンジ支援機構を設立し、社会復帰が困難な刑務所出所者等の支援を行なっている。33歳で天台宗酒井大阿闍梨のもとで得度。その生き様は、テレビドラマ「愛・命～新宿歌舞伎町駆け込み寺～」(主演・渡辺謙)にもなっている。

年生から新聞配達を始めて、勉強する暇なんてなかった。

とにかくどんな目にあっても耐えるんやと、「自分に克つ」ことばかり考えてた。喧嘩も一対一なら絶対負けへん自信があったし、ポコポコにされんために、相手が何を求めているか瞬時に察する力も身についた。だから、今でもトラブル解決には真正面から加害者と向き合う。相談者を匿ったり逃がしたりしても根本解決にはなりません。

あと、人生の節々で誰かが現れて自分をガイドしてくれた。何度も死にそうなる目にあいましたけれど、今もこうして生きてる。きっと何か役割があるんやろうな。

比叡山の大阿闍梨との出会い

―役割といえは、30代で得度とくどされていますね。

玄 これも縁やと思いますけれど、1990年のある日、知り合いに連れられて比叡山に行って、酒井雄哉

大阿闍梨に出会いました。

その頃の俺は、金儲けと女遊びの毎日。中学を出てから、自動車修理工、すし屋、パチンコ屋、土木など、あらゆる仕事を経験しながらとにかく働き続けていたんですが、商才もあつたようで、おもしろいように商売が広がっていました。比叡山に行ったのは興味本位の軽い気持ちやったけれど、それから毎週、不動明王を見に通ううちに、ある日、阿闍梨さんから得度を勧められたんです。

―金儲けの世界から、いきなり180度の大転換。

玄 その得度式で「十善戒」を渡されて、ほんまに困った。十の戒めを全部守ってたら、俺の場合、商売になりません。それでも阿闍梨さんにくっついて恐山まで歩いたりして、在家ながらも修行を重ねました。そんな25年前からの歴史が今に生きるんやと思います。肉にサシが入るようなもんやね。

―阿闍梨さんも、きっと玄さんの

外見ではなく本質をご覧になって、「この人！」と思われたんでしょうね。得度された後もご商売は続けておられますが、その後に「駆け込み寺」を立ち上げたのは、どういう経緯だったのでしょうか？

玄 ある日、献血の結果が郵送されてきて、「HTLV-1」という白血病のキャリアだということがわかりました。まだ40代の半ばだし、仕事の拠点を関西から東京に移してがんばっていた矢先。それこそ晴天の霹靂で、気が動転して、「HIV」、つまりエイズの宣告だと思い込んでしまいました。思い当たる節は十分すぎるほどあつたしな。

数日後に勘違いだと気づいたけれど、当時は発症すれば不治の病であることに変わりはない。これが大きな転機になったのは確かで、それまでの金儲け人生が吹っ切れたような気がしました。

そうしたら不思議なことに、「NPO」とか「ボランティア」とか、今まで縁の無かったような字が目に入ってくるようになった。こういう奇特な活動してる人たちがいるんや



日本駆け込み寺

繁華街のど真ん中につくった 駆け込み寺

—それが現在の「公益社団法人日本駆け込み寺」の前身となるNPOですね。2002年に東京・新宿の歌舞伎町の一角で相談所を開設されてから13年、本当にありとあらゆる相談を受けていらっしやいますが、最近の変化や傾向はありますか？

玄 相談案件が、時代とともに複雑になっている。13年前はもつとストリートでした。DVの相談を持ち込まれたケースも、話を聞いていくと

多重債務の問題が根本原因だったり、家族同士のややこしい絡みがあったりするので、その根っこを見つけて出して処理しなアカン。解決方法も一件一件異なるし、前例も手引書もない。俺が先頭を切って、問題解決の事例をつくってるみたいなんやね。

一方で、この13年間、自分のスタンスは少しも変わってません。「たった一人を救う」、ただそれだけ。どんなに悩み、困っていても、とにかくここに来いと。俺の経験が

何か役に立つなら使ってや、という気持ちで、毎日相談窓口を開けています。

—トラブルを抱える人にとっては、まさに最後の頼みの綱としての「駆け込み寺」ですね。

そして2015年4月に、出所者が働ける場所として、同じく歌舞伎町に「新宿駆け込み餃子」というお店をオープンされました。これは、根っこの問題の解決のために始められた事業ですか？

日本財団も「職親プロジェクト」という、少年院出所者や刑務所出所者に就労体験の機会を提供する事業をやっておられます。どちらも再チャレンジが可能な社会を目指した事業ですね。

敗者復活ができる 社会づくりへ

玄 日本財団には、永年にわたって駆け込み寺事業を支援していただいています。職親プロジェクトのアイデアも5年前くらいからあり

な、俺やったら何ができるんやろな、なんてことを考えてたら、「新宿歌舞伎町でボランティア」という言葉がひらめいた。そこからひたすらNPOのことを勉強して、約5カ月後の2002年5月にNPO法人日本ソーシャル・マイノリティ協会新宿救護センターを立ち上げました。



新宿駆け込み餃子

ました。今ではずいぶん就労体験を受け入れてくれる協力企業も増えたけれど、この「出所者支援居酒屋」は、それとはまたちよつと違います。就労の機会を提供するだけでなく、「人との交わりのなかで社会性を養う」ということに主眼を置いているんです。だから、この歌舞伎町につくることに意味があった。

今、駆け込み寺の相談所は宮城県仙台市国分町にもありますが、いずれ全国の歓楽街に広げたいと思っ
ています。
―悪い人間を懲らしめたり排除したりするのはなく、共生していく社会ですね。
玄 そう、敗者復活ができる社会にすることです。なくそう、なくそうとしたって、あるもんはあるんやから、受け入れていかんと。まず繁華街のなかに彼らの抛り所をつくり、働く場をつくる。うまくいけば、
独立して自分の店を持つ。ものには順番つてもんがあるから。

日本では、再犯者の6割から8割が無職というデータがありますが、出所者を再び雇のなかに戻さないためにも、仕事を確保するのが最優先課題や。
―国も「刑務所出所者等の再犯防止に向けた総合対策」を策定して取り組んでいます。そのなかに「就労や住

居の確保等を通じた社会復帰支援は、地域社会の理解と協力を得て推進することが有効である」と書かれています。

玄 この分野は、まだ専門家がいません。だから、官と民が一緒になって知恵を出し合って、今ある制度をうまくつなぎ合わせてやっていくしかないんやないかな。あと、この支援居酒屋を企画している一般社団法人再チャレンジ支援機構では、二トやひきこもりと呼ばれている若者の社会復帰も支援しています。1回や2回の失敗や挫折で社会からはじかれてしまっってはかわいそうやる。彼らをもう一度社会のなかに戻してやらんと。

実は、いま俺が取り組んでいる課題はこれだけではありません。他にも大事なことが3つあります。

ひとつは、DVとストーカーの加害者対応。さつきも話しましたが、被害者だけの相談に乗っていても、解決にはなりません。加害者も被害者と同じぐらい複雑な問題を抱えています。だから、加害者と話をし



歌舞伎町のパトロール

て、殺人等の最悪の事態を回避しないといけないんです。日本ではこの対応がまだまだ不十分。

2つめは、子どものいじめや虐待問題。大人は子どもを何も知らんから、被害者の近くで気づいた人間が、大人たちに知らせること

ができるように、「いのちの葉書」をつくりました。いま、この葉書をコンビニに置いてもらえるように策を練っているところです。この葉書で、先日川崎で起きた中一男子殺害のような悲惨な事件をひとつでも未然に防ぎたい。

そして3つめは、自殺の問題。行政もがんばってるけど、会議や勉強ばかりです。この問題はもっと一気にやらんと。ぼちぼちやってたらだめやし、当事者に張りついたミクロの活動だけでもだめ。俺らのようにフットワークの軽い民間の団体がまず実践して、同時並行で、国にも提案を持っていくことが大事やと思います。

―おっしゃる通り、社会課題に取り組むにはミクロとマクロの両方の視点が必要です。社会制度を変えていくためにも、公益法人になられた意味は大きいですね。ぜひこの取組みを全国の困っている方々のために届けていただきたいと思います。
本日はどうもありがとうございます。

【取材後記】

毎日、全国から駆け込んでくる相談者に向き合う玄さんは、インタビューの最後に、「この歌舞伎町で身代わり不動になれたらいいな」と呟かれました。玄さんが得度された天台宗の開祖・最澄は、「一隅を照らす、これすなわち国の宝なり」と説いています。歌舞伎町という不夜城の街で、日々一隅を照らし続ける玄さんは、まさに「国の宝」社会にとつてなくてはならない存在」となっているのだと思います。

その表情は、お不動さんの忿怒ではなく菩薩のような温かな笑顔でした。

インタビュー

公益社団法人日本フィランソロピー協会

理事長 高橋陽子

【2015年4月27日 日本駆け込み寺

にて】

■新宿駆け込み餃子

住所…新宿区歌舞伎町1-12-2
第58東京ビル1階・2階
TEL…03・62333・7099
営業時間…17時～24時
(ラストオーダー23時)
席数…69席
www.kakekomi-gyoza.com/

【再チャレンジプロジェクト 賛同者募集中！】

刑務所や少年院等を出所した人を雇用し、社会性と仕事ノウハウを学ぶことによって社会復帰を果たすことを支援する同店では、この再チャレンジプロジェクト賛同者を募集しています。

支援金は研修費や社会復帰のために活用されます。賛同者になると、お名前を書いた木札が店内に提示され、新宿駆け込み餃子で利用できる支援金と同額のお食事券が進呈されます。



店舗内に掲示されたプロジェクト賛同者の木札



日々さまざまな相談が寄せられる

■一般社団法人再チャレンジ 支援機構

社会生活が困難になった若者や矯正施設出所者等に、社会参加や復帰の機会を拡大することを目的に、①社会教育の推進を図る事業、②職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する事業、③前各号に付帯又は関連する事業を行う。

【団体を構成する主たる事業】

- ① 就労体験の実施と就労支援（就労体験／就労支援／資格取得／技能取得）
 - ② 再犯防止支援（研修／カウンセリング／相談）
 - ③ 社会復帰に関する調査検討（再犯に関する課題及び未然防止のための調査等）
- ※ひきこもりやニートの支援や、外出困難な相談に対応する訪問相談も行っている。

住所…東京都新宿区歌舞伎町
2-42-3 林ビル2階
TEL…03・6205・6022
FAX…03・6205・6030
E-mail : info@shienkiko.jp
<http://shienkiko.jp/>